

私のガーデニング・マインド



茨城県立陶芸美術館前の作品（笠間市）

いけばな。

生まれ変わらせる

新たな景色に

街並みを




北大路魯山人が愛した「春風萬里」前の作品

いけばなは室内に飾るもの、という固定概念がまだまだあるのですが、庭にも、そして街並みにもどんどんと出て行くべきものなのです。生きている植物というものは、そのあるがままを愛でること自体素晴らしいものですが、いけばなというものは、人の感性と技によって生きとしいけるものの美しさをさらに引き立て、暮らしを生き生きと彩るものだからです。街は暮らしの大きな舞台です。私は花や草木などが持つパワーを多くの人たちにより一層伝えたいために、写真にある笠間市の例のように、街並みの中にいけばなアートを創り出すことも行っています。街並みの見慣れた景色や環境が、アートによってガラリと見違えたものとなります。新たな息吹を街並みに吹き込むことによって、自分の街の美しさを再発見できるのではないのでしょうか。街の作品ではモチーフとして「竹」を用いることが多いのですが、伸び伸びとした竹のダイナミズムが街並みに合うのです。また、竹というものはどんどん切らないと良い竹が育ってきません。作品展示後の竹は笠間焼の燃料として使われたのですが、これもエコロジーの一環かもしれません。

華道家 假屋崎省吾

1958年、東京生まれ。早稲田大学在学中に草月流に入門。草月流家元勅使河原宏氏の傍らで、いけばなにとまどらず空間を創ることの面白さを学んだ。美輪明宏氏より「美をつむぎだす人」と評され、今最も注目されている華道家であり、スペースクリエイター。クリントン米大統領日時や天皇陛下御在位10周年記念の花のプロデューサーも務める。受賞、著書多数。假屋崎省吾花教室 主宰。草月流師範会理事等役職多数。


 華道家 假屋崎 省吾 氏

<http://warp.on.arena.ne.jp/>